

平成 19 年度第 1 回学術情報ネットワーク運営・連携本部会議議事概要

1. 日 時 平成 19 年 5 月 11 日 (金) 10:00~12:30

2. 場 所 国立情報学研究所 22 階会議室

4. 議事概要

(1)学術情報ネットワーク運営・連携本部委員の交代等について

坂内本部長から、資料 2-1 に基づき、学術情報ネットワーク運営・連携本部委員の交代について報告があった。

・名古屋大学情報連携基盤センター 河口信夫准教授から八槇博史准教授

続いて、資料 2-2、2-3、2-4 に基づき、ネットワーク作業部会、認証作業部会、グリッド作業部会の各委員の交代等について紹介があり、次のとおり承認された。

・ ネットワーク作業部会

➤ 国立情報学研究所学術基盤推進部次長 早瀬 均 (新規委員)

➤ 国立情報学研究所学術ネットワーク研究開発センター 中村素典特任教授 (新規オブザーバー)

・ 認証作業部会

➤ 東京工業大学学術国際情報センター 松岡聡教授から飯田勝吉准教授

・ グリッド作業部会

➤ 北海道大学情報基盤センター 高井昌彰教授から棟朝雅晴准教授

➤ 高エネルギー加速器研究機構計算科学センター 川端節彌教授から佐々木節准教授

(2)SINET3 構築の進捗状況について

事務局から、資料 3 に基づき、SINET3 構築の進捗状況について報告があった。また、坂内本部長から移行作業終了まで引き続きご協力をお願いしたい旨発言があった。

(3)ネットワーク作業部会報告

安達委員から、資料 4 に基づき、ネットワーク作業部会の活動報告があった。特にトラフィック情報提供サービスをもとに、ネットワークの利用状況に応じて増減速を実施する等、限られたリソースを最大限有効に活用していきたい旨の説明があった。

(4)認証作業部会報告/サーバ証明書発行・導入における啓発・評価プロジェクト実施について (審議事項)

岡部委員から、資料 5-1 に基づき、認証作業部会の活動報告があった。続いて、資料 5-2 に基づき、「サーバ証明書発行・導入における啓発・評価プロジェクト」実施のための要領及び参加手続きについて説明があり、①プロジェクト実施のための要領等 ②申請者本人確認のための運営・連携本部長名での依頼文書送付 の 2 点について承認された。これに関連して、次のような意見があった。

- ・ グリッドについては、本プロジェクト実施にあたり、認証の仕組みを一緒にするのか全く別々にするのか。
 - 基本的には別物という認識なので、一緒にはできないだろう。グリッドは APGridPMA で必要とされることがあるが、一方 UPKI では WebTrust の認定を受ける必要があり、認証時に要求されるものが異なる。パブリック、キャンパス、グリッド PKI の 3 階層が各々独立しつつ相互に連携し合う仕組みを考えている。

(5)グリッド作業部会報告

青柳委員から、資料 6 に基づき、グリッド作業部会の活動報告があった。また、NII の三浦教授から次の補足説明があった。

- ・ 昨年度、e-サイエンスの一環として、エンドユーザの研究者層に実際に NAREGI を使っていたとパイロットプロジェクト（阪大レーザ研から阪大のスーパースケジューラを経由して NAREGI マシンに入って計算するというもの）を実施した。この例のように、今後はエンドユーザにもきちんと NAREGI をアピールしていく必要がある。

他に次のような意見があった。

- ・ 我々の研究グループが e-サイエンスを進めるにあたり、韓国の計算機に NAREGI をインストールしたいが経費の問題がある。
 - まずお金ありきではなく、様々な提案を受けて実施していきたいと考えている。NAREGI の上に e-サイエンスが載る、という発想よりも、文科系のデータベース資料など、グリッドとは別のサーチプラットフォームを構成する方が先決だと思われる。その意味で、e-サイエンスはナイーブな面を含んでおり、もう少し幅広く活動しているというイメージである。

(6)国立大学法人等における情報セキュリティポリシー策定作業部会報告／作業部会の設置期間延長について（審議事項）

曾根委員から、資料 7-1 に基づき、情報セキュリティポリシー策定作業部会の活動報告があった。続いて、資料 7-2 に基づき作業部会の設置期間延長について説明があり、承認された。

(7)SINET3 開通式について

事務局から、資料 8 に基づき、国立情報学研究所オープンハウス 2 日目（6 月 8 日）に、SINET3 の開通式を挙げる旨の紹介があった。また、坂内本部長から運営・連携本部委員の方々にも出席いただきたい旨の発言があった。

(8)その他

- 1)L1 オンデマンドサービスについて

NIIの漆谷教授から、参考資料に基づき、L1 オンデマンドサービスの概要について説明があった。この件について次のような意見があった。

- ・ 本サービスは、ネットワークリソースを、これまでの機関単位ではなく、個人または研究者コミュニティといった VO に近い単位で、オンデマンドで提供していくものと理解している。これは、欲しいときに欲しい組織が安心・安全にリソースの提供を受けられるという点で大変画期的なものであり、ぜひスーパーGOCに反映させていきたいと考えている。そこで、バーチャルホスティングという形でネットワークとグリッドのリソースを一体として提供していくのか、あるいは 2 階層のサービスとして提供していくことになるのか、そのあたりはどのように考えているのか。
 - ネットワーク作業部会では、サービスを受ける対象者が、機関から、もっと粒度の小さい個人または研究グループの単位になることに伴い、制度面から整備するため、規程の見直しを開始している。そのため、このようなリソース提供サービスについては、より慎重に検討を進めているところである。
 - GOC や VO、ネットワーク等の関係をどうするかは、現在は白紙の状態だがこれから議論をしていく必要があると思っている。これについては、ネットワーク作業部会とグリッド作業部会でコラボレートしていきたい。
 - そういうことをやる時は必ず認証が必要になるので、ぜひ UPKI をご活用いただきたい。

2) 研究環境基盤部会資料に基づく意見交換

坂内本部長から、別添参考資料「学術研究の推進体制に関する作業部会（第 8 回）合同会議資料」に基づき概要説明があり、フォローアップとして井深文部科学省情報課室長から、本件に関する文科省の考え方について説明があった。その後意見交換を行った。

－ 以上 －